

# 国 語

(中学校第1学年)

| 注 意 |                                                                                                             |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 「始め」の合図があるまで，中の問題を見てはいけません。                                                                                 |
| 2   | 下の欄 <sup>らん</sup> に，組，出席番号，名前を書きなさい。                                                                        |
| 3   | 「始め」の合図があったら，別に配られている解答用紙に，組，出席番号，名前を書き，「A問題（基本）」から始めなさい。                                                   |
| 4   | 問題用紙は，全部で10ページあります。<br>「A問題（基本）」は，6ページで，問題は $\boxed{五}$ まであります。<br>「B問題（活用）」は，4ページで，問題は $\boxed{二}$ まであります。 |
| 5   | 問題に取り組む時間のめやすは，「A問題」が25分，「B問題」が20分です。<br>時間に気をつけて解きなさい。<br>早く終わったら，先に進んで解いても，もとにもどって解いてもかまいません。             |
| 6   | 答えは，解答用紙の決められた場所に，はっきりと書きなさい。                                                                               |
| 7   | 印刷がはっきりしなくて読めないときは，だまって手をあげなさい。<br>問題の内容などの質問には答えられません。                                                     |

|         | 問題番号                                            | 時 間 |
|---------|-------------------------------------------------|-----|
| A問題（基本） | $\boxed{一}\boxed{二}\boxed{三}\boxed{四}\boxed{五}$ | 25分 |
| B問題（活用） | $\boxed{一}\boxed{二}$                            | 20分 |
| 合 計     |                                                 | 45分 |

|     |   |   |    |
|-----|---|---|----|
| 1 年 | 組 | 番 | 名前 |
|-----|---|---|----|

## A 問題

(二十五分)

### 一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

いねのほが実り始める九月の中ごろになると、町外れにある用水路のせきを閉め、田を干すのが、ぼくの町のならわしだった。町中を南北に流れる川は、せきが閉まると、二、三十センチの浅せに変わり、町中の子どもも大人も、魚とりに夢中になる。ぼくもあみをかた手に、魚を求めて川の中を歩き回っている。

何気なく上流の浅せに目をやったとき、ぼくは自分の目をうたぐった。竹のすのこのすぐ下のところに、あざやかな紅色のコイがゆうゆうと円をえがいて泳いでいたのだ。三十センチはゆうにある。

ぼくは①が高鳴った。すのこがかげになっていて、上流にも下流にも人がいるのに、幸い、だれも気がついていないようなのだ。ぼくは幸運に舌なめずりしながら、さりげないふうをよそおい、コイに気づかれないように静かに川を下りた。

ぶるると武者ぶるいがおきた。あみをしっかり右手ににぎりしめると、はやる心をおさえ、ぼくは、そろりそろりコイに近づいていった。頭の上からすっぽりあみをかぶせようか、それとも、浅せに追いかもうか、心を決めかねながら。

コイは、ぼくに気がついていいるようなそぶりも見せず、ゆっくりと同じ速度で、ぐるぐると左回りに泳いでいる。

浅せに追いこもう……。

ぼくはこしをかがめ、あみでにげ道をふさぐようなかつこうをしてせまっていた。

二メートルほどに近づいたとき、ついにコイはぼくに気づいた。コイはいっしゅん、動きを止めた。そしてすぐに、ぴっぴつと直線的に泳ぎながらにげ道を探し始めた。ぼくはあみを持って、じわっ、じわ々とコイに近づいていった。

あと一メートルというときだ。コイはおどろくほどの速さで、するどくぼくの足下へとつ進してきた。とつさにぼくはあみを出した。しかし、そのあみをかいくぐって、赤いかたまりが矢のように後ろの方

へ飛んでいくのが見えた。ぼくは身をひるがえして、ばしやばしやと浅せを追いかけて走った。

だが、あつというまに、コイの姿は目の前の深みに消えてしまった。全く、いっしゅんの出来事だった。ぼくはぼう然として、深みをながめていた。②の高鳴りはいつこうに治まらなかった。③やつとめぐり合った幸運をつかみそこねたのだ。大物のコイだった。それもだれもがほしがっている紅鯉べんごいを！

(おかしゅうぞう 丘修三「紅鯉」による)

問一 文章中の①と②に共通して入る言葉として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 頭  
イ 耳  
ウ 胸  
エ 腹

問二 文章中に――線③「やつとめぐり合った幸運をつかみそこねたのだ。」とありますが、これはどういうことですか。文章中の言葉を使い、「くこと。」の形で終わるよう二十五字以内で答えなさい。

問三 この文章の特ちょうについて説明したものとして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 様子を表す言葉を多く用いて、臨場感を高めている。  
イ 方言を多く用いて、話の内容を身近なものにしている。  
ウ たとえを多く用いて、風景の美しさを印象的に描いている。  
エ 会話を多く用いて、温かさや親しみやすさを表している。

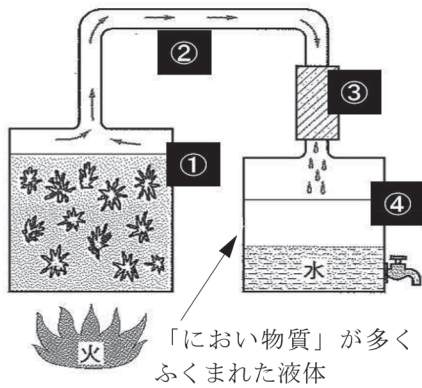
二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

木々の緑は、二酸化炭素を吸い、人にとってなくてはならない新鮮な酸素を放出します。この新鮮な酸素をふくむ空気は、人間の内臓のはたらきを活発にします。それで、私たちは、つかれがとれて、生き生きとしてくるのです。

このような健康に役立つ森林のはたらきについては、古くから知られていました。さらに研究が進み、森林の木や草などから出されるのにおいにも、健康に役立つさまざまなはたらきのあることがわかってきました。

森林に行って、空気をむねいっぱいに吸いこんでみましょう。ほのかな木の葉ののにおいに気づくことでしょうか。このにおいも、私たちの体に効果的にはたらくことが、次のような実験からわかってきたのです。

実験の準備として、森林でよく見かけるヒノキの葉から、においを取り出します。枝や木の葉を細かくきざんでつめると、葉のにおいにふくまれている蒸発しやすい「におい物質」が、水蒸気と一緒に出てきます。これを冷やすと、におい物質が多くふくまれた液体ができます。「におい物質」とは、葉をちぎった時ににおうもので、森林のにおいのもです。



- ① 〆の枝や葉をにる。  
② 「におい物質」が水蒸気に混じって出てくる。  
③ 「ある装置」  
④ 「におい物質」は、水と分かれ、水にうく。

【図】「におい物質」を取り出す仕組み

(谷田貝光克「森林のはたらきと健康」による)

問一 文章中の【図】の一部を説明した①の〆に当てはまるふさわしい言葉を、文章中から三字で抜き出して書きなさい。

問二 文章中の【図】にある③は、「ある装置」になっています。この装置は何をするための装置でしょうか。次のAとBに当てはまる言葉を、文章中からそれぞれ三字で抜き出して書きなさい。

「におい物質」とAをBのための装置

### 三

宮崎さんの学級では、入学してからの一か月をふり返り、今後の活動を決める話し合いを行いました。次は、話し合いに出された【保体委員会からの提案の一部】とそれを聞いている【宮崎さんの心の中の声】です。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

#### 【保体委員会からの提案の一部】

入学して一か月がたちました。みなさんは、学級のみんなとふれ合うことができていますか。私もそうですが、中には、まだ、きん張したり、新しいかん境になじめなかったりする人もいます。

□、保体委員会では、昼休みにみんなで遊ぶ日を設定し、学級全員で遊びたいと思います。

これから、三つの遊びを提案します。その中から、みなさんの意見を聞いて、遊びの一つに決めたいと思います。また、他の遊びを提案してもかまいません。

なお、遊びを選ぶ基準は、みんなが参加でき、多くの人とふれ合えるということです。

まず初めは、おにごっこです。多くの人とふれ合えるし、ルールも簡単だからです。

次は、ドッジボールです。全員で参加できるし、小学校からの経験があるからです。

最後は、すごろくです。運動が苦手な人も楽しめるからです。

（提案が続く）

#### 【宮崎さんの心の中の声】

確かに、私も一部の人としか接していないし、学級のみんなと遊んだことがないわ。



〈宮崎さん〉

問一

【保体委員会からの提案の一部】の□に入る言葉として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア　すると
- イ　そこで
- ウ　つまり
- エ　しかし

問二

【宮崎さんの心の中の声】は、【保体委員会からの提案の一部】をどのように聞いていますか。当てはまるものとして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア　それぞれの提案のちがいを比較しながら聞いている。
- イ　言葉のつかい方は正しいかを考えながら聞いている。
- ウ　提案に対して反対の立場に立ちながら聞いている。
- エ　提案理由を自分の経験と結び付けながら聞いている。

次のページに問題□四があります。



**五** 次の問いに答えなさい。

問一 次の(1)、(2)の——線の漢字の読みがなを書きなさい。

(1) 背後から声をかける。

(2) 彼は幼いころからの友人だ。

問二 次の(1)、(2)の——線のひらがなを、漢字に直して書きなさい。

ただし、必要なものには、送りがなをつけなさい。

(1) 人口がげんしようする。

(2) 鏡にうつる姿を見る。

問三 漢字辞典で、次のア、イ、エの漢字を調べます。部首さくいで調べる場合、一番はじめに出てくる漢字として、最も適当なものを、次のア、イ、エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 祖    イ 福    ウ 迷    エ 造

問四 次の(    )に入ることわざとして、最も適当なものを、後のア、イ、エから一つ選び、記号で答えなさい。

君がそんな簡単なまちがいをするとは、(    )だね。

ア 「転ばぬ先のつえ」    イ 「おびに短したすきに長し」  
ウ 「石の上にも三年」    エ 「さるも木から落ちる」

問五 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の文の——線ア、イ、エから主語と述語をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

私たちは、昨日は    テニスを    した。

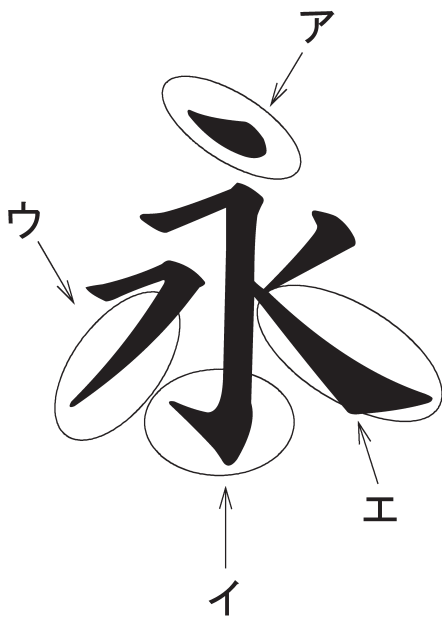
(2) 次の——線の言葉をローマ字で書きなさい。

先月、さつぽろ市を訪れた。

(3) 次の【説明】は「永」という字のどの部分を書く際のものですか。最も適当な部分を、後のア、イ、エから一つ選び、記号で答えなさい。

【説明】

だんだん筆圧を弱めながら、ほ先をそろえるようにしてゆつくりとはらう。



## B 問題

(二十分)

### 一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小林さんは、総合的な学習の時間で学んでいる「点字」について調べるために、学校や地域の図書館に行つて、必要な本を選びました。次は、小林さんが選んだ【A】【B】二冊の本です。

●小林さんが選んだ本【A】の一部

点字は、縦3つ、横2列の6つの凸の点で構成されています。この単位を「マス」といいます。「1マス、2マス」と数えます。6つの点をいろいろに組み合わせると、63通りができます。でもこれだけでは、50音でほとんどを使ってしまうから、63通り以外の文字は、2マス使います。

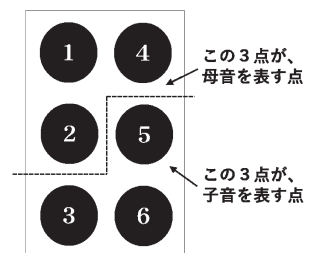
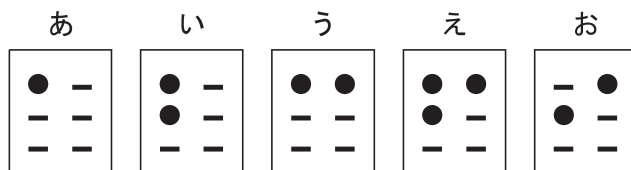
点字は左から右へ、指を動かしながら読んでいきます。書かれていることが理解しやすいように、「次はにごりますよ」(だく音の場合)という符号が先にきて、次に例えば「か」があると「が」と読むなどという仕組みになっています。「次は……ですよ」というお知らせ符号には、ローマ字、数字のためのものなどたくさんあります。

(石井みどり「はじめての点字」より)

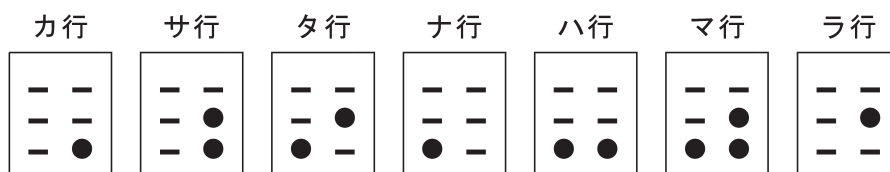
点字とは、目の不自由な人が、読んだり書いたりするときに使う文字のことをいいます。点字って、どんなものなのか、これから見ていきましょう。

点字には、もりあがった点(凸点)が使われます。点字では、①～⑥の点のうち、**①②④**の点は母音を表す点、**③⑤⑥**の点は子音を表す点と、大きくふたつに分けられています。

母音の「あ・い・う・え・お」は、**①②④**の点を使って、下のよう表します。



子音は、それぞれの行を示す点で表します。**③⑤⑥**の点を使って、下のよう使っています。



(しゃかいふく し ほうじん に ほんてん じ と しょかん かんしゅう  
社会福祉法人 日本点字図書館 監修「もっと知ろう! 点字」より)

●小林さんが選んだ本【B】の一部

問一

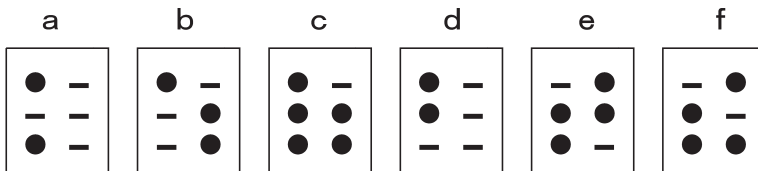
小林さんは、最初に【A】の本を選び、その後に【B】の本を選びました。【B】の本を選んだ小林さんの本の選び方に対する考えの説明として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「点字」の基本的な表し方を理解するために、母音の表し方などが視覚的にイメージできる本を選んだ。
- イ 「点字」の多様な仕組みを理解するために、だく音などの表し方が具体的に例示されている本を選んだ。
- ウ 「点字」の表し方の注意点を理解するために、ローマ字や数字などの表し方が分かる本を選んだ。
- エ 「点字」のきまりを覚えるためのコツを理解するために、クイズ形式で楽しく読める本を選んだ。

問二

小林さんは、自分の名前の「さとみ」を「点字」で表したいと思いました。「さ」「と」「み」の各文字に対応する「点字」を次の【点字候補】のa～fからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。なお、「点字」を選ぶ際には、小林さんが選んだ本を参考にします。

【点字候補】



## 二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

図書委員の北川さんたちは、夏休みに全校生徒に地域の図書館を利用してもらうようにするため、小・中学生向けに発行された「図書館だより」の内容を、全校集会で伝えることにしました。

次は、小・中学生向けに発行された「図書館だより」と、北川さんが作成した全校集会で伝える内容の「発表原稿」です。

● 図書館だより（一部） ※里山市立図書館発行

里山市内の小・中学生のみなさんへ

### 図書館だより★7・8月号

里山市立図書館

里山市立図書館では、小・中学生のみなさんが利用しやすいように工夫しています。どんどん利用してください。

#### ■ 図書館が開いている曜日・時間

- ◇ 火曜日から金曜日  
午前9時～午後7時まで
- ◇ 土曜日・日曜日・祝日  
午前9時～午後5時まで  
※ 休みは、毎週月曜日

#### ■ 本の貸し出しについて

- ◇ 一人5冊までとし、2週間以内に返してください。
- ※ 夏休みの間は、10冊まで！

#### ■ 読書相談日

- ◇ 小学校1・2・3年生→火曜日
- ◇ 小学校4・5・6年生→水曜日
- ◇ 中学校1・2・3年生→金曜日
- ※ 図書館の職員が、決められた曜日の開館時間内に相談にのります。

#### ■ 本を探すとき

- ◇ コンピュータを使うことができます。使い方が分からないときは、職員に聞いてください。

#### ★7月・8月の図書館行事★ ～夏休み特別講座～

##### 【カンタン！読書感想文】

- ・ 「本の選び方や書き出しの工夫」
- ・ 7月24日（火）
- ・ 13：00～15：00
- ・ 学習室

##### 【自由研究はまかせて】

- ・ 「テーマの選び方やまとめ方」
- ・ 8月2日（木）
- ・ 14：00～16：00
- ・ 会議室

● 発表原稿（一部）

これから、里山市立図書館の利用の仕方や、夏休みに計画されている図書館行事のことなどについて、四つのことをお知らせします。みなさんにとって、きつとためになることがあると思いますので、このお知らせを参考にし、図書館を、ぜひ利用してください。

一つめは、開館時間についてです。時間は午前九時から午後七時までです。ただし、土曜日と日曜日、祝日は午後五時で閉まります。休館日は月曜日です。

①二つめは、本の貸し出しについてです。一人五冊まで借りることができ、期間は二週間です。

三つめは、読書相談についてです。これは、例えば調べ学習で参考になりそうな本を探すときに、図書館の職員の方が相談にのってくださるサービスです。

中学生が相談できる曜日は、②です。相談時間は、午前九時から③までです。

四つめは、夏休みに計画されている二つの図書館行事についてです。

まず、一つめです。読書感想文の書き方講座があります。内容は、本の選び方や書き出しの工夫についてです。七月二十四日の火曜日、午後一時から午後三時までで、場所は学習室です。次に、二つめです。

④

問一 発表原稿の――線①「二つめは」の段落に、さらに内容を付け加えようとするならば、どのようなことを付け加えますか。付け加えたい内容として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 夏休み期間は、本を探すために使えるコンピュータの台数が増えること。

イ 夏休み期間は、コンピュータを使った本の探し方講座が計画されていること。

ウ 夏休み期間の一人当たりの図書の貸し出し冊数は、十冊に増えること。

エ 夏休み期間の一人当たりの図書の貸し出し冊数は、十冊増えて十五冊になること。

問二 発表原稿の②と③に入る言葉をそれぞれ書きなさい。

問三 発表原稿の④に入る内容を、次の（条件）に従って書きなさい。

（条件）

・ 発表原稿にある「二つめ」の、行事のしようかいの仕方をもとにして書くこと。

・ 三つの文で書くこと。

・ 六十字以上、七十字以内で書くこと。

